

## 第62期 第3回 日本物理学会男女共同参画推進委員会 議事録（案）

日時：2007年4月7日（土）13:00～17:00

出席者：田島節子、前田京剛、家泰弘、森初果、井上順一郎、有光直子、  
肥山詠美子、中島美帆、伊藤厚子（ネットコメンテータ）、岡村裕子（事務局）  
欠席者：池内了、初田真知子、田口善弘、野崎光昭

### 議題

#### I. 報告事項

(1) 4月6日開催の学協会連絡会運営委員会の報告が前田委員よりなされた。

- ・「女子高校生夏の学校」の準備状況の報告がされた。
- ・「女子高校生春の学校：ジュニア科学塾2007 in 関西」の報告があった。
- ・高校と大学の連絡窓口について議論がなされた。
- ・今年度の学協会シンポジウム（10月5日（金））が秋に名古屋大学野依記念館にて行われる予定。
- ・分子生物学会から提案された政府への要望書については、学協会連絡会として提出することになった。

(2) サブグループ報告：学生・高校生への情報伝達グループ（森委員より）

今年度女子高校生夏の学校は、平成19年8月16日（木）～8月18日（土）に国立女性教育会館にて行われる予定。物理学会は、「超伝導リニアモーターカーで地球を一周」と「虹色の液晶ストラップを作ろう」というタイトルで実験を行う。学協会と国立女性教育会館が文科省に3月16日に予算を申請。

(3) サブグループ報告：広報サブグループ（井上委員より）

男女共同参画推進委員会HPに夏の学校で実施した実験紹介の資料を掲載する予定。

物理学会4月号に掲載された記事（RPD制度について）について報告があった。

今回の物理学会記事について議論した結果、女性研究者支援事業に採択された10大学の取り組みを紹介することになった。昨年の学協会連絡会シンポジウムの資料を参考に要点を抽出し、記事にする前に各大学へ了承を得る予定。（夏までに）

その次の記事としては、関西地区の科学塾、埼玉の夏の学校の報告を掲載する予定。（秋以降）

(4) 関西ジュニア科学塾の実施状況（田島委員より）

参加者は84名。非常に盛況に行われた。今回は初めての企画であったが、今後も継続の方針で行う。平成19年度は大阪大学で行う予定で申請書を提出した。関西の場合、大

人数の女子学生の宿泊施設の問題がある。

(5) AAPPS GWIP によるシンポジウムが APPC10(Pohang)の中で開催される。これには、坂東前委員長が招待され、講演を行う予定であることが報告された。

## II. 審議事項

(1) 秋の物理学会においてシンポジウムを開催予定。

i) 日程は、名古屋大学での学協会連絡会シンポジウムと近いので、内容がかぶらないように配慮する。学会最終日(9月24日)の午前中に決定。

ii) テーマ: 昨年からの施行されたいろいろな施策について、多くの会員に知ってもらうことを目的のひとつとし、現状分析をし、よりよい制度への発展を目指す。

iii) 一人(20分程度の講演)トータルで2時間半程度。

・「女性研究者支援モデル育成」事業で採択された10大学の進行状況活動について(北大、東北大、奈良女大、お茶大)奈良女子大の講師については肥山委員担当。その他講師は田島委員担当。

・学振関係者に講演依頼する。(RPDや育児休暇によるPD期間延長などの制度について)

・政府関係者に招待講演依頼する。家委員が人選担当。

・女子高校生夏の学校の報告(鳥養氏に依頼予定)

iv) シンポジウムタイトルについては、後日メールで提案。

v) できれば、最後にパネルディスカッションを入れる。

(2) 学協会連絡会の実施する大規模アンケートについて

実施することは決定。アンケート項目などはまだ決定していない。実施の場合は、協力する。

(3) 女性研究者支援事業採択機関へのアンケートについて

本アンケートのためのワーキンググループが発足するのを待ってから議論。

(4) AAPPS 担当者の承認

しばらくの間、鳥養氏へ一任することを承認した。物理学会理事会にて報告予定。

(5) 今年度 RPD 募集について

PRD 募集の周知に仕方について議論した。

物理学会のメーリングリストを活用して、PRD 制度の認知度を高めるべきであるという結論になったが、物理学会のメーリングリストの使用が可能か、調べてみることになった。(田

島委員担当)

(6) 今後の活動について

i) 高校生向け活動について

- ・ 女子高生夏の学校、関西ジュニア科学塾は今後も継続する。
- ・ 韓国との交流については、もう少し考える。
- ・ 女子高校生向けイベントが、もっと全国で開催されてもいいのではないか、という提案があった。これを受け、物理学会各支部での啓発活動実施状況を調べてみるようになった。
- ・ 何故、女子高校生は物理を選ぶことが少ないのか。その原因を取り除く活動は何か。  
高校の先生の影響が大きいのであれば、高校の先生を相手の企画を行う必要があるか。  
或いは親への啓発活動が必要か。
- ・ 各支部において、高校生への理科啓蒙活動状況を調査してみる。

ii) 女性研究者支援事業について

- ・ 「女性研究者支援モデル育成」事業で採択された10大学があるが、この事業を広めるためには、どうしたらよいか？
- ・ 大学以外の研究機関へは広げられないのか？

iii) 男女共同参画委員会として、新しいメンバーを考えてみる。大学以外の組織からの参加が望まれる。例えば、高エネルギー加速器研究機構や産業技術総合研究所から。

(7) 次回委員会日程

ネットコメンテータを含めた拡大委員会を物理学会年会のシンポジウムの後に行う。(9月24日)